「土地に付權利を有する者が小作料として受けたる穀物其の他勅令を以て指定する物品を所有する場合又は木炭の生産を爲す者が其の生産したる木炭を所有する場合」に改む

第十九條第二項中「前項の規定に依り寄託を受けたる物品」の下に又は販賣組合若は販賣組合聯合會が賣却する穀物、繭、木炭其の他勅令を以て指定する物品」を加へ同條第三項中「又は販賣組合若は販賣組合聯合會が賣却する物品」を「販賣組合若は販賣組合聯合會が賣却する物品又は命令を以て指定する營利を目的とせざる法人が賣却若は賣却の斡旋を爲す物品」に改め同條に左の一項を加ふ

前項の規定に依り命令を以て指定する營利を目的とせざる法人の爲に物品の保管を爲すことを得る聯合農業倉庫業者は命令を以て之を指定す

第二十一條第二項中「所屬組合又は所屬聯合會に非ざる組合又は聯合會」を「所屬組合若は所屬聯合會に非ざる組合若は聯合會又は命令を以て指定する營利を目的とせざる法人」に改む

第二十六條中第一項の次に左の一項を加ふ

第一條第二項の規定は第十九條第一項及第二項に規定する寄託物に之を準用す

附　則

本法施行の期日は勅令を以て之を定む

(5) 治安維持法案中改正法律案

（小字及——は衆議院の修正なり）

治安維持法

第一章　通　則

第一條本法の罪を犯したる者に付ては刑事手續其の他に關し本法に別段の規定ある場合を除くの外一般の例に依る

第二條　本法は何人を問はず本法施行區域外に於て罪を犯したる者に亦之を適用す

第二章　罪

第三條　國體を變革することを目的として結社を組織したる者又は結社の役員其の他指導者たる任務に從事したる者は死刑又は無期若は七年以上の懲役に處し情を知りて結社に加入したる者又は結社の目的遂行の爲にする行爲を爲したる者は三年以上の有期懲役に處す

第四條　前條の結社を支援することを目的として結社を組織したる者又は結社の役員其の他指導者たる任務に從事したる者は無期又は五年以上の懲役に處し情を知りて結社に加入したる者又は結社の目的遂行の爲する行爲を爲したる者は二年以上の有期懲役に處す

第五條　第三條の目的を以て其の目的たる事項の實行に關し協議を爲し又は其の目的たる事項の實行を煽動したる者は一年以上七年以下の懲役に處す

第三條の目的を以て其の目的たる事項を宣傳したる者は六月以上五年以下の懲役に處す

第六條　第三條の目的を以て騷擾、暴行其の他生命、身體又は財産に害を加ふべき犯罪を煽動したる者は一年以上十年以下の懲役に處す

第七條　前四條の罪を犯さしむることを目的として金品を供與し若は其の他の方法を以て便宜を與へたる者又は情を知りて之を受けたる者は五年以下の懲役に處す

第八條　私有財産制度を否認することを目的として結社を組織したる者又は情を知りて結社に加入したる者若は結社の目的遂行の爲にする行爲を爲したる者は十年以下の懲役又は禁錮に處す

第九條　前條の目的を以て其の目的たる事項の實行に關し協議を爲し又は其の目的たる事項の實行を煽動したる者は五年以下の懲役又は禁錮に處す

第十條　第八條の目的を以て騷擾、暴行其の他生命、身體又は財産に害を加ふべき犯罪を煽動したる者は七年以下の懲役又は禁錮に處す

第十一條　前三條の罪を犯さしむることを目的として金品を供與し若は其の他の方法を以て便宜を與へたる者又は情を知りて之を受けたる者は三年以下の懲役又は禁錮に處す

第十二條　第三條、第四條及第八條の未遂罪は之を罰す

第十三條　本章の罪を犯したる者自首したるときは其の刑を減輕又は免除す

第三章　刑事手續

第十四條　第三條、第四條及第八條の罪に該る被疑事件に付被疑者左の各號の一に該當する場合に於て急速を要し判事の勾引狀を求むること能はざるときは地方裁判所の檢事は直に被疑者を勾引することを得

一　被疑者定りたる住居を有せざるとき

二　被疑者罪證を湮滅する虞あるとき

三　被疑者逃亡したるとき又は逃亡する虞あるとき

四　被疑者變名又は僞名を使用する疑あるとき

第十五條　勾引したる被疑者は指定の場所に引致したる時より四十八時間内に之を訊問すべし其の時間内に勾留狀を發せざるときは被疑者を釋放すべし

第十六條　第十四條の規定に依り被疑者場合に於て急速を要し判事の勾留狀を求むることを勾引することを得べき原由あるときは之能はざるときは地方裁判所の檢事は被疑者を勾留することを得

の勾留は前條の規定に依り被疑者を訊問したる後に非ざれば之を爲すことを得ず但し被疑者逃亡したる場合は此の限に在らず

第十七條　前條の規定に依り勾留したる被疑者は檢事特に必要ありと思料する場合に限り之を訊問することを得

第十八條　勾留の期間は二月とす特に職權の必要ある場合に於ては一回限之を更新することを得

第十九條　勾留の原由消滅し其の他勾留を繼續するの必要なしと思料するときは速に被疑者を釋放すべし

第二十條　刑事訴訟法中被告人の勾引及勾留に關する規定は別段の規定ある場合を除くの外本法の勾引及勾留に付之を準用す但し保釋、責付及執行停止に關する規定は此の限に在らず

第二十一條　本法の罪を犯したる者に對する被告事件公判に付せられたる場合に於て檢事必要ありと認むるときは事件の繫屬する裁判所及移轉先裁判所に共通する直近上級裁判所に管轄移轉の請求を爲すことを得但し第一回公判期日の指定ありたる後は此の限に在らず

前項の請求ありたるときは決定ある迄訴訟手續を停止すべし

第四章　保護觀察

第二十二條　本法の罪を犯したる者に對し刑の執行猶豫の言渡ありたる場合又は刑事訴訟法第二百七十九條の規定に依り公訴を提起せざる場合に於て檢事必要ありと認むるときは本人を保護觀察に付することを得

第二十三條　保護觀察は本人を司法保護委員の觀察に付し、保護者に引渡し又は寺院、教會、保護團體、病院若は適當たる者に委託若は送致して之を爲す

第二十四條　保護觀察を行ふには本人の更に罪を犯すの危險を防止し且本人をして正業に從事せしむることに留意すべし

第二十五條　司法保護委員及保護觀察に關し必要なる事項は勅令を以て之を定む

第五章　豫防拘禁

第二十六條　第三條又は第四條の罪を犯し刑に處せられたる者其の執行を終り釋放せらるべき場合に於て釋放後に於て更に第三條又は第四條の罪を犯すの虞あること顯著なるときは裁判所は檢事の請求に因り本人を豫防拘禁に付す

第二十七條　前條の規定に依る豫防拘禁の請求は本人の現在地を管轄する地方裁判所の檢事刑務委員會の議を經書面を以て其の裁判所に之を爲すべし

前項の請求ありたるときは裁判所は本人の選任することを得陳述を聽き決定を爲すべし本人は辯護人を裁判所は本人及辯護人の意見を聽き決定を爲すべし

第二十八條　豫防拘禁に付する旨の決定に對しては本人より即時抗告を爲すことを得此の抗告は裁判の執行を停止する效力を有せず

第二十九條　刑事訴訟法中決定及即時抗告に關する規定は第二十七條第二項の決定及前

條の即時抗告に付之を準用す

第三十條　豫防拘禁に付せられたる者は適當なる監獄内の特に分界を設けたる場所に之を收容し改悛せしむる爲必要なる處置を爲すべし

第三十一條　豫防拘禁の期間は二年を以内とす但特に必要ある場合に於ては裁判所は之を更新することを得

第二十七條乃至第二十九條の規定は前項の更新の場合に之を準用す

第三十二條　豫防拘禁は刑の執行終了後引續き之を執行す

刑事訴訟法中裁判の執行指揮に關する規定は前項の執行に付之を準用す

第三十三條　豫防拘禁に付せられたる者其の執行に因り著しく健康を害する虞あるとき其の他重大なる事由あるときは豫防拘禁の決定を爲したる裁判所の檢事又は本人の現在地を管轄する地方裁判所の檢事の指揮に依り豫防拘禁の執行を停止することを得

第三十四條　豫防拘禁に付せられたる者逃亡したるときは檢事は直に逮捕狀を發し又は司法警察官をして之を發せしむることを得

刑事訴訟法中逮捕狀に關する規定は前項の逮捕狀に付之を準用す

第三十五條　豫防拘禁に付せられたる者收容後其の必要なきに至りたるときは行政官廳の處分を以て退所せしむべし

前項の處分を爲すには刑務委員會の議を經べし

第三十六條　刑務委員會及豫防拘禁に關し必要なる事項は勅令を以て之を定む

附　則

第三十七條　本法施行の期日は勅令を以て之を定む

第三十八條　本法は本法施行前從前の規定に定めたる罪を犯したる者に亦之を適用す但し改正規定に定むる刑が從前の規定に定めたる刑より重きときは從前の規定に定めたる刑に依り處斷す

豫防拘禁に關する規定は從前の第一條第一項の罪に付本法施行前刑に處せられたる者に亦之を適用す

第三十九條　豫防拘禁に付せられたる者は當分の間監獄内の特に分界を設けたる場所に之を收容することを得

第四十條　本法に於て地方裁判所の檢事とあるは朝鮮に於ては地方法院の檢事とす

(6) 原蠶種管理法案

第一條　政府は蠶種の統制を圖る爲原蠶種の製造を管理す

第二條　本法に於て原種とは原蠶種にして普通蠶種の製造に用ふるものを謂ひ原原種とは原蠶種にして原種の製造に用ふるものを謂ふ

第三條　原原種の製造は政府之を行ふ

政府は其の製造に係る原原種を府縣に配付す但し第九條第一項の許可を受けたる蠶種製造者に之を配付することを得

第四條　前條の規定に依り政府の製造配付すべき原原種の品種は蠶品種審査會の議を經て主務大臣之を定む

蠶品種審査會の組織は勅令を以て之を定む

第五條　府縣は命令の定むる所に依り政府より配付せられたる原原種より產出したる繭を用ひて原種を製造し蠶種製造者に之を配付すべし

前項の規定に依る原種の製造及配付に關し必要なる費用は府縣の負擔とす但し國庫は勅令の定むる所に依り豫算の範圍内に於て府縣に對し其の原種製造設備に要する經費の二分の一以内を補助することを得

第六條　政府又は府縣は第三條、前條第一項又は第十二條の規定に依り配付する原原種又は原種に對し勅令の定むる所に依り料金を徴收することを得

第七條　原原種及原種の配付に關し必要なる事項は命令を以て之を定む

第八條　蠶種製造者は原蠶種を製造することを得

第九條　蠶種製造者は前條の規定に拘らず原種の製造に限り命令の定むる所に依り主務大臣の許可を受け之を爲すことを得

前項の場合に於ては政府より配付せられたる原原種より產出したる繭を用ふるに非ざれば原種を製造することを得ず

第一項の許可を受け製造したる原種及其の

蠶兒は之を譲渡することを得ず但し命令の定むる所に依り主務大臣の許可を受けたる場合は此の限に在らず

第十條　蠶種製造者は府縣より配付せられたる原種又は前條第一項の許可を受け製造したる原種より產出したる繭を用ふるに非ざれば普通蠶種を製造することを得ず

蠶種製造者は府縣より配付せられたる原種及其の蠶兒を譲渡することを得ず但し命令の定むる所に依り地方長官の許可を受けたる場合は此の限に在らず

第十一條　蠶種製造者普通蠶種を製造せんとするときは主務大臣の定めたる交配形式に依るべし

主務大臣前項の交配形式を定めんとするときは蠶品種審査會の議を經ることを要す

第十二條　天災其の他不可抗力に因り原種の製造又は配付を爲すこと能はざる場合に於ては府縣は主務大臣の許可を受け他の府縣より原種を譲受け之を蠶種製造者に配付し又は政府より原原種の配付を受け之を原種として若は既に配付を受けたる原原種を原種として蠶種製造者に配付することを得

第十三條　蠶種の輸入、移入、輸出又は移出は命令の定むる所に依り主務大臣の許可を受くるに非ざれば之を爲すことを得ず

第十四條　主務大臣は蠶種製造者に對し蠶種の統制上必要なる事項を命ずることを得

第十五條　主務大臣必要ありと認むるときは第九條第一項の許可を受けたる蠶種製造者に對し設備の改善を命じ其の他監督上必要なる命令を發し又は處分を爲すことを得

第十六條　第九條第一項の許可を受けたる蠶種製造者の所爲にして本法若は本法に基きて發する命令に違反する所爲ありと認むる害するの虞ありと認むるときは主務大臣は其の許可を取消すことを得

第十七條　當該官吏吏員取締上必要ありと認むるときは蠶種製造者又は第十三條の許可を受けたる者の事務所、營業所、製造場、倉庫等に臨檢し物品及帳簿其の他の書類を調査し又は必要なる分量に限り無償にて物品を收去することを得

主務大臣又は地方長官本法又は本法に基きて發する命令に違反する所爲ありと認むるときは當該官吏吏員をして前項に揭げたる場所に臨檢し被疑者若は參考人を尋問し又は犯罪の事實を證明すべき物件、帳簿、書類を搜索し若は之が差押を爲さしむることを得、

臨檢、尋問、搜索又は差押に關しては間接國稅犯則者處分法を準用す

主務大臣又は地方長官取締上必要ありと認むるときは蠶種製造者又は第十三條の許可を受けたる者に對し業務に關する報告を爲さしむることを得

第十八條　第八條、第九條第二項第三項、第十條、第十一條第一項又は第十三條の規定に違反したる者は五千圓以下の罰金に處す

第十九條　第十四條の規定に依る命令に違反したる者は五百圓以下の罰金に處す

第二十條　左の各號の一に該當する者は三百圓以下の罰金に處す

一　第十五條の規定に依る命令に違反し又は同條の規定に依る處分を拒み若は妨げたる者

二　第十七條第一項又は第二項の規定に依る職務の執行を拒み若は妨げたる者又は臨檢の際當該官吏吏員の尋問に對し答辯を爲さず若は虛僞の陳述を爲したる者

三　第十七條第四項の規定に依る報告を爲さず又は虛僞の報告を爲したる者

第二十一條　第十八條の犯罪に係る蠶種、蠶兒又は繭は之を沒收し若は其の全部又は一部を沒收すること能はざる場合は其の價額を追徵す

前項の蠶種又は蠶兒犯人以外の者に屬するときは行政官廳の處分を以て之を沒收することを得

第二十二條　蠶種製造又は第十三條の許可を受けたる者は其の代理人、戶主、家族、同居者、雇人其の他の從業者にして本法又は本法に基きて發する命令に違反する所爲を爲したるときは自己の指揮に出でざるの故を以て其の處罰を免るることを得ず

第二十三條　本法又は本法に基きて發する命令に依り適用すべき罰則は其の者が法人なるときは理事、取締役其の他の法人の義務を執行する役員に、未成年者又は禁治產者なるときは其の法定代理人に之を適用す但

し營業に關し成年者と同一の能力を有する未成年者に付ては此の限に在らず

第二十四條　本法中府縣に關する規定は北海道に於ては北海道地方費に之を準用す

附　則

本法施行の期日は各規定に付勅令を以て之を定む

蠶絲業法第二條中「稱するは」の下に「府縣を除くの外」を加ふ

蠶絲業法第七條を削除す

蠶絲業法第十條中「蠶種製造者」を「府縣及原蠶種管理法第九條第一項の許可を受けたる蠶種製造者」に改む

蠶絲業法第十一條の二に左の一項を加ふ

　府縣は命令の定むる所に依り自己の製造する蠶種に關し檢査を行ふべし

蠶絲業法第十二條中「及第十七條の檢査に合格したる蠶種」及「原蠶種又は」を削る

蠶絲業法第十八條及第二十四條を削除す

蠶絲業法第三十七條第一項中「本法若は本法に基きて發する命令」を「本法若は原蠶種管理法又は之に基きて發する命令」に改む

蠶絲業法第三十九條第三號を削る

蠶絲業法第四十一條第一項中「第三號」を削る

▲

四、建議案及請願

新潟北鮮間直通命令航路開始され度（建議案・可決）

（三月廿日建議委員會）

風島委員長　日程第二十七、新潟北鮮間直通命令航路開始に關する建議案を議題と致します、提案者松木君

松木委員　簡單に説明致しまして御賛成を得たいと思ひます、新潟港は第一期事業計畫が完成致しまして、著しく伸展を見るに至りましたのであります、現に昭和六年に於ける實績は其の設備並に荷揚能力は日本海沿岸に於ける第一位を占めて居ると云ふ情勢であります、そうして最近滿洲國の建設に伴ひまして、日滿連絡の最も緊密なる關係を有しまする北鮮より新京に至る鐵路京圖線は昭和八年六月、又哈爾賓に通ずる拉賓線は同年の十二月何れも開通致しまして、日滿兩國の交通、貿易上の一大新紀元を劃するに至つたのであります、新潟港は御承知の通り帝都と滿洲國首都新京とを連繫致します唯一の最短距離に位して居りまして、彼我船車の連絡宜しきを得ますれば、兩地の間僅かに四十數時間にして達することが出來るのであります、即ち新潟港は國際都市と致しまして、日本海沿岸に於ける重要なる使命を有する港でありますから此の新潟港に對して北鮮間の直通命令航路を開始すると云ふことは、日滿交通の上から申しましても、軍事、經濟上から申しましても、是は當然であると信ずるのであります、此の案は前期の議會にも既に通過を致しまして遞信省でも是が緊要を認められまして、昭和九年度の豫算に計上されたと云ふことを聞きましたが、不幸にして大藏省で豫算の關係上削除されたと云ふ話であります、甚だ遺憾に堪へない次第でありますが、どうぞ政府は新潟港の重要性に鑑みられまして、是非とも此の直通命令航路の開始の實現せられんことを御願致したいのであります、幸に政府委員が御出席になつて居りますから、之に對する御意見を伺つて置きたいと思ひます

淺野政府委員　御答申上ます、新潟北鮮間の直通命令航路に付きましては、只今御述べなさいましたやうに、滿洲國の獨立、吉會線の開通に伴ひまして、北鮮諸港と裏日本諸港との間に非常に重要な關係を生じたのであります、新潟と致しましては、上越線の開通によりまして關東地方、東京との間の交通が非常に便利になりました、從ひまして新潟、北鮮間の航路に付きましても、此開設を必要と認めまして、遞信省と致しましては計畫を樹てたので御座いましたが、財政の關係上豫算の成立を見るに至らなかつたことは洵に遺憾に存ずるので御座います、將來財政の許す範圍内に於きまして、成ろべく速に其の實現を期したいと考へて居ります

林委員　提案の御趣旨御尤であると認めますから、可決せられんことを望みます

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

風島委員長　林君の動議に御異議なしと認めて左樣決します

富山朝鮮滿洲帝國間定期航空路開設（建議案・可決）

（三月二日建議委員會）

風島委員長　日程第二十九、富山より東京大阪名古屋仙臺青森の各地間及富山朝鮮滿洲帝國間定期航空路開設に關する建議案、提案者の説明を求めます、土倉君

土倉宗明君　本建議案は富山飛行場から北鮮滿洲並に本州の東京、名古屋、大阪、仙臺青森各地を連絡する定期航空路開設の建議であります、固より軍事上必要なるのみならず、交通上から申しましても、航空路の開設の緊要なることは論ずるまでもない話でありますが、翻つて實情を見ますと、眞に未だ其要求を充すだけには至つて居らないことを、吾々は甚だ遺憾に存じまして、本建議案を出した所以であります、獨り是は富山と云ふ地域的の利益ではないのであります、産業上或は交通上、軍事上殊に日本海方面に於きまする唯一の富山飛行場を其儘何等爲すことなく放棄されて居るやうな狀態であつては、將來の航空界と云ふものは洵に寒心に堪へないものがあると思ふのであります、さう云ふ點から申上げて居るのでありまして、是は當局は固より軍部に於かれましても、相當犧牲を拂はれて航空路の發達及び國防上の完璧を期せられなければならぬ所のものであると信じて疑はないのであります、此點に付て政府當局の御意見を承りまして、速に此吾々の希望する建議が實現されまするやうに御願ひ致します、是が玆に本案を提出した所以であります

片岡政府委員　富山縣に於きましては、昨年縣當局並に縣民各位の熱心な御協力に依りまして、美事な飛行場が完成致したのであります、縣の仕事として民間の飛行場を御拵へになつたと云ふのは、恐らく富山の飛行場が初めてゞあらうと思ふのであります、範を天下に垂れて居るのでありまして洵に吾々も御同慶に堪へないのであります、尚只今御話のありました地方都市相互間の連絡飛行と云ふことに付きましては、政府に於きましても特に色々と調査研究を進めて居るのであります大阪富山、富山東京或は名古屋から北陸、又仙臺青森等の連絡と云ふことに付きましても、それぞれ調査研究を續けて居るのであります、差向き來年度に於きましては、富山縣當局と協力致しまして或る期間五月頃から秋に掛けまして東京と富山の間に定期航路を實現して見たいと考へて居ります、尚は日本海沿岸の方から羅津を經て滿洲との連絡と云ふ問題に付きましては、關係當局とも能く協議を致して、折角考究して居りますが、まだ只今の所ではどう云ふ計畫でどう云ふ風にやると云ふ具體的のことを御答へ申上げるまでには至つて居りませぬが、極めて重要な問題であると斯樣に考へて居ります

石井政府委員　只今遞信當局から申上げましたが、陸軍と致しましては他の航空路と比較研究致しまして、段々此方面に進めなければならないのであります、今までと致しましては何れが好い惡いと云ふやうなことは此處で申上げることは出來ないのでありますけれども、陸軍と致しましても最も將來此航空と云ふことに付ては重きを置いて居るのでありますから、十分研究調査を致しまして、成べく速に提案の趣旨に副ふやうに致したいと存じて居ります

土倉宗明君　段々御説明を承りまして稍ゝ安心を致したのでありますが、昨年十月畏くも梨本宮の御台臨を仰ぎまして、富山飛行場は開場式を擧げたのであります、それが日本海沿岸の各主要都市の注目する所となりまして、新潟縣に於きましても、其他日本海沿岸の都市に於ても、相當此飛行場開設熱が旺盛に動いて居ると云ふことを承つて居るのであります、是は洵に航空界の爲に慶賀すべきことでありまして、大に將來も是の發達を望む者であります、固より飛行機の發達は飛行場と相俟たなければならぬと云ふことは專門家を俟たずして明瞭なことであるのであります、併ながら折角生樣も申上げた如く、飛行場ばかりが出來ても之を活用することなくんば、矢張り飛行界將來の爲に宜くないことではないか、矢張り出來た飛行場を有利に活用し、運用すると云ふことがあつて初め

樺太の名士と事業

て民間飛行の發達となり、或は軍事上其他の上にも非常に裨益する所があらうと思ふのでありますから、願くば只今局長の述べられた如く、速に一歩々々御協力になつて實現の出來まするやうに御努力を願ひたいと思ひます、是は一局長のみならず軍部當局に於かれましても、今や國際關係極めて「デリケート」でありまする此際、日本海方面に於ける所の防禦と此航空路或は飛行場と云ふやうな問題は、關聯して緊切なものでありますが故に、願くばもう一段の御努力と御配慮を賜りまして、吾々の安心の出來ますやう、又發達の曙光が現れまするやうに御盡力を仰ぎたいと考へます

松木委員　本案は適切なる建議案と認めますから可決あらんことを望みます

〔「賛成」と呼ぶ者あり〕

星島委員長　松木君の御動議に別に御異議なしと認めまして左樣決します

敦賀清津羅津又は雄基間聯絡特急航路を開始されたし

（建議案・可決）

（三月十五日建議委員會）

星島委員長　次は日程第六敦賀清津羅津又は雄基間聯絡特急航路開始に關する建議案——提出者熊谷五右衛門君

熊谷五右衛門君　本建議案は敦賀と清津羅津又は雄基との間に聯絡の特急航路を開いて欲しいと云ふ建議案であります、昨年の本會議に於ても通過して居りますのであります、今や新京と京阪地方及岐阜、名古屋、三重、奈良邊りの諸縣と連絡する樣に玆に鐵道省に於て航路を開いて欲しいと云ふ希望なんであります、只今北日本汽船が命令航路として開始して居るのでありますが、度數が僅かであります、吾々の希望を達することが出來ないのであります、故に鐵道省に於て是非此航路を開いて欲しいと云ふのであります、是れ亦委員諸君の御賛成を得て是非此の連絡を開始せられんことを切望致す次第であります

板谷政府委員　敦賀清津羅津雄基間の聯絡航路に付きましては熊谷君は多年主張されて居るのでありますが只今御説明の如く現在に於ては北日本汽船が此の間の定期命令航路をやつて居りますので、鐵道省と致しましては差當つて此航路を開設すると云ふ意志がないのであります、洵に御氣の毒でありますが、將來或は日滿連絡と云ふ關係から必要を生じました場合はいざ知らず現在の所では省としては此の航路を開始すると云ふ考は有つて居らぬのであります共點惡しからず御承知置を願ひます

熊谷五右衛門君　只今政府委員の御説明を聽きますと、鐵道省は遞信省の御義理合で非常に御遠慮なさるのではないかと思ひます、結局是はどうしても日滿連絡と云ふ、上に於て、遞信省の航路では完備出來ないと思つて居りますので、矢張鐵道省の連絡が必要と思ふのであります、どうか鐵道省に於かれても、此點能く御考慮あらんことを、偏に御願して置きます

高橋(守)委員　本案も第六十四議會で可決された建議案であります、只今政府委員の御説明もありまするが、提出者の御説明の趣を拜聽致しまして、是非とも成るべく速に、此の建議案の趣意を達成するやうに希望したいと思ひますので、可決せられんことを希望致します

星島委員長　高橋君の御動議に御異議ありませぬか

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

星島委員長　御異議なしと認めまして、左樣決します

製油用大豆關税免除率改正の件

（請願・採擇）

請願者　福岡市藥院堀端七番地ノ一ノ三　福岡縣農會副會長　城島春次郎　外十四名

紹介議員　田村實君外二名

本請願の要旨は製油用大豆に對し關税を免除するは農家經濟を壓迫すること大なりと信ず依て速に大正十年勅令第二百三十八號を改正して製油用大豆に適當なる實税を課し以て菜種製産に對する脅威を除き農民をして其の恩惠に浴せしめられたしと謂ふに在り

樺太廳

長官 今村武志

內務部長 高島久次郎
農林部長 高橋敏雄
警察部長 山崎隆義
逓信課長 宮崎雷八
林務課長 丹芳治郎
文書課長 田中熊太
地方課長 上野武雄
學務課長 小野久七
會計課長 福島末治
秘書課長 山田容義
財務課長 三東忠之介
視學官 薄木虎次郎
鑛務課長 可野信一
林業課長 今見昇
社會教育官 森川梅雄

警務課長 竹森和一
保安課長 伊藤英吉
刑事課長 中岡都治
殖民課長 正見透
水產課長 岡本曉
土木課長 奈良部龜松
農林部殖民課 水島與
同 碓氷誠
同 技師 佐藤司
土木課技師 境清吉
同 石井佐賀惠
同 奥平義行
水產物檢査所長 塊重三
林業課技師 市川三五郎
鑛務課技師 川崎勝
林業課技師 山岸亮
林務課技師 新關恒太郎
警察官練習所長 薄井友治
林務課技師 上野實意

樺太廳鐵道事務所

所長 大島忠康
庶務係長 熊川知義
經理係長 宮原二紀
運輸係長 入間川傳藏
車輛係長 草野虎一
保線係長 磯野九郎
建設係長 鈴木保

樺太廳豐原醫院

院長 九鬼左馬之助

福澤茂
加島豊吉
重延進
倉橋次郎
大坪彦三郎
藤堂四郎
石間かね
今島巖
高松鷲雄

專務 市村多默

樺太廳遞信課

課長 宮崎雷八

杉本彌一
伊與田章一
工藤重泰
角田正夫
深田清
森勝榮三郎
佐藤芳次郎
高橋隆次
松本光隆
川又勇司
青木平章
藤田常五郎

樺太廳中央試驗所

所長 三宅康次

畜產部長 奈良部都義
水產部長 村山佐太郎
農業部長 川瀨逝二
林業部長 田中勝吉
庶務課長 田口稔

豐原支廳

支廳長 千藏保臣
財務係長 川上博
殖產係長 小野寺鯤一
庶務係長 梅林嘉吉
視學 星合正貞

樺太廳豐原林務署

署長 齋藤眷二
庶務係長 小技眞一
業務係長 齋藤浩

豐原警察署

署長 須藤庫之介
司法主任 木村直人

豐原消防組

組頭 四日榮造
副組頭 氏家政治
第一部頭 渡邊與三吉
第二部頭 前川安太郎
第三部頭 小杉政吉
第四部頭 吉田正木
第五部頭 木村正勝
第六部頭 佐久間信吉
第七部頭 岩本吾市
第八部頭 若原嘉一
第九部頭 佐藤太

樺太廳豐原中學校長

上田光曦

樺太廳豐原高等女學校長

福山惟吉

豐原第一尋常高等小學校

校長 金子利信

豐原第二尋常小學校

校長 芹澤外記

豐原第三尋常小學校

校長 野口要

豐原町役場

町長 高橋彌太郎
助役 倉島周吉
收入役 菅原助市

豐原町會議員

（議席順）

須賀清次郎
渡邊與惣吉
田中省三
熊川知義
太田鎭雄
山本善吉
柳本德次郎
小田島末藏
關捨六

等力了
入江岩吉
小野寺鯤一
仙崎覺次郎
吉田彦吉
福富清重
藤田松太郎
樅山眞
氏家政治
酒井榮作
佐々木三之介
加藤清一郎
四日榮造
原正毅
出口乙吉
井坂林平
杉本孝作
柳澤元三郎
高橋彌太郎
上田二朗
佐々木多利治

豐原商工會議所

會頭 小林隆平
副會頭 肥田恒三郎
理事 藤森良正

豐原商工會議所議員（席順）

松岡昌男　鈴木莊治　生駒猛
太田鎭雄　澤田治郎　荒谷又與門
駒村健三　四谷弘俊　尾野眞一
金子金六　伊東勇治　岡本實
木村政勝　小田島末藏　樋口忠吉
日向國利　出口乙吉　黑田一義
前川安太郎　肥田恒三郎　細谷時次郎
渡邊與惣吉　杉本孝作　小林隆平
後藤文太郎　齋藤恭市　中田留造
前田松太郎　關捨六

鐵道省廣告代理業
秦式揭示衝立發賣元
樺太軍川藥草農場
八達社
秦實
東京市京橋區築地一ノ七
電話京橋二、三三〇番

若泉小太郎
警察講習學會
事務所 東京市神田小川町一ノ三
電話 神田四二六六番

豐北村役場

村長 大場節太郎
收入役 吉田常二郎
村會議員 中井萬太郎
和田逸郎
田口稔
藤村俊基
河野由松
上野君平

金高勘六
高橋源左衛門
寺井憲雄
小原等
町田房藏
川畑勘造
小沼尋常高等小學校 校長 福田忠正
小沼郵便局 局長 中島市治

小沼巡査駐在所 高田安松

豐北村消防組
組頭 中井芳太郎
部頭 加藤庄左工門
同 川畑勘造
同 町田房藏
同 大川雄造
同 藤野猪之吉
同 湯淺寛二
同 小南丑松

川上村役場

村長 守田良太郎
助役 松川久助
收入役 小林稔
評議員 戸田薫一
北島守衛門
加藤榮藏
佐藤禮藏

川中福治
石川粂吉
島崎馘
山口百重郎
山田實
今井鴻一郎
守田良太郎
高橋熊太郎

川上炭山郵便局長 福永毅
川上尋常高等小學校長 佐竹賢太郎
川上巡査部長派出所 山口幸德

榮濱村役場

村長 池野寅次郎
收入役 藤澤榮
議員 細入益太郎
木村九一
鈴木守次郎
遠藤吉藏

青木吉太郎
竹内松次郎
林縫五郎
前川乙吉
高橋喜代吉
高橋專三郎
遠藤藤吉
吉岡佐平

榮濱驛長 藤中庄一
榮濱郵便局長 細入益太郎
榮濱小學校長 佐藤八重肝
榮濱巡査部長派出所 笛木音七
同 池田秀一

白縫村役場

村長 落合宇七
收入役 池田弘基
議員 井上勝次郎
木俣惣七
重成清
佐藤修平

杵淵竹藏
柳谷武雄
岩淵清次
菅原ちかし
鈴木增三郎
柳谷戈二
内藤兵作
河原仁太郎

白縫村消防組
組頭 佐藤修平
副組頭 木俣惣七
第一部頭 柳屋武雄
第二部頭 阿部長次郎
第三部頭 武内與八郎
白縫郵便局長 三浦昌三郎
眞縫郵便局長 柿崎一精

樺太豐原町樺太廳內

財團法人

樺太山火豫防協會

會長　今村武志

副會長　田中治朗

同　高橋敏雄

樺太拓殖計畫期成同盟會

會長　高橋彌太郎

副會長　松尾鑛治

同　藤田忍

本部幹事　倉島周吉

同　菅原助市

同　宮內忠良

同　藤森良正

顧問　沖島鎌三

同　鵜澤宇八

同　中川小十郎

同　藤原銀次郎

同　大川平三郎

同　石坂豐一

同　塚越卯太郎

同　高島菊次郎

同　竹內友治郎

同　遠藤米七

同　扇田彥助

上京委員

豐原町　高橋彌太郎

大泊町　松尾鑛治

敷香町　折戸惣市

惠須取町　稻垣敏夫

眞岡町　杉本善之助

豐原町　小林隆平

大泊町　大野順末

同　吉川平八

同　須藤光俊

知取町　三宅貞太郎

同　秋山五郎

敷香町　大泉卯八

惠須取町　高村純平

本斗町　吉澤福治

眞岡町　大橋德太郎

久春內村　奧山朗々

鵜城村　水野健吉

豐原町　大川政春

樺太拓殖計畫期成同盟會理事

豐原町 小林隆平
同 太田鎭雄
同 四日榮造
豐北村 大塲節太郎
川上村 守田良太郎
落合町 石井幸太郎
榮濱村 池野寅次郎
白縫村 落合宇七
大泊町 小瀧四郎五郎
同 梶榮太郎
同 田邊庄次郎
千歲村 菊池馨
深海村 岡田利次

長濱村 戸塚金次郎
遠淵村 熊瀨直吉
知床村 高橋安兵衛
富內村 山本秀幾
留多加村 會澤武夫
三郷村 後藤雄之助
能登呂村 長嶺崇
本斗町 長倉雄松
內幌村 水野綱吉
好仁村 三浦義男
海馬村 葛岡丑吾
眞岡町 大橋德太郎
同 江端駒吉

廣地村 中川陸司
蘭泊村 岡田藤吾
野田町 小野豐實
小能登呂村 鈴木寅次郎
泊居町 角谷彖次郎
同 金田要吉
名寄村 穴田龍太郎
久春內村 奧山賢龍
三濱村 石川初太郎
鵜城村 木內重緒
惠須取町 稻垣敏夫
同 高村純平
名寄村 高橋寅之助

帆寄村 長島兵治郎
元泊村 山越和三郎
知取町 三宅貞太郎
同 秋山五郎
同 水永毅
泊岸村 三谷益雄
內路村 藤田甚三
敷香町 鈴木朝次郎
同 片山小彌太
散江村 本郷健三

王子製紙株式會社 樺太分社幹部

總務部
理事 光澤義男

工務部
理事 山內幾馬

山林部
理事 梅澤源吉

各工場幹部

大泊
工場長 秋山晴雄
工場長代理 山本猪藏
山林出張所長 篠原爲一

豐原
工場長 宇宿勇輔
工場長代理 中村茂樹
山林出張所長 鈴木要

落合
工場長 山本省吾
事務主任 龍野良輔
山林出張所長 菱沼勇三

知取
工場長 山內幾馬
事務主任 水永毅
山林出張所長 谷村進

眞岡
工場長 澤漸
事務主任 竹田昇
山林出張所長 日比野肇

野田
工場長 打保常次郎
山林出張所長 岡田武雄

泊居
工場長 金子三明
事務主任 高菊次郎
山林出張所長 中信吉

惠須取
工場長 相馬末吉
事務主任 眞壁太治
山林出張所長 原田悅吉

王子製紙株式會社

樺太分社山林部

大泊出張所
主任 篠原爲一

豐原出張所
所長 鈴木要

理事 梅澤源吉

落合出張所
主任 菱沼勇三

知取出張所
所長 谷村進

眞岡出張所
主任 日比野肇

野田出張所
主任 岡田武雄

泊居出張所
主任 中平信吉

惠須取出張所
所長 原田悅治

王子製紙株式會社豐原工場

工場長 宇宿勇輔
工場長代理 中村茂樹
工務係長 河内山光直
會計係長 加藤清一郎

豐原町大通南三丁目十七番地十九番地

株式會社 北海道拓殖銀行 豐原支店

電話 三一五一 三一五二 三一五三(倶樂部)

王子製紙株式會社樺太分社

山林部豐原出張所

所長 鈴木要

官幣大社 樺太神社

宮司 齋藤富士雄
禰宜 齋藤重彦
主典 堀澤周行
名譽主典 湖山寛

王子製紙會社專屬
造材業 **衣川安雄**
樺太豐原町

王子製紙會社專屬
造材業 **國枝寅吉**
樺太豐原町

王子製紙會社專屬
造材業 **大倉吉作**
樺太豐原町

土木建築請負
菊谷組
菊谷丑之助
本店 札幌 支店 樺太 大泊
出張所主任 阿部東吾
樺太豐原町

樺太豐原町
高橋洋服店
店主 高橋彌太郎
樺太豐原町

內幌炭販賣
白井組
樺太豐原驛前
支配人 高田安己

樺太豐原町
太田新五郎
電話二一四八番

製材製函
鉋掛賃挽 **太田木工場**
電話二二〇六番

機械農業農產
加工並ニ養狐 **太田農場**

豐月堂
店主 大橋秀次
豐原町西一條一丁目

大泊支廳

支廳長　尾澤清太郎
殖產係長　武田博
庶務係長　日影館喜助
財務係長　澤田潤二
視學　米田錦四郎

大泊林務署

署長　熊瀨清邦
庶務係長　三上護衛
業務係長　根守四郎

大泊警察署

署長警視　種部長藏
警部　松尾好泉

大泊消防組

組頭　大野順末
副組頭　重村敏一
第一部頭　新澤安之助
第二部頭　伊藤市三郎
第三部頭　片川與三郎
第四部頭　今田慶二郎
第五部頭　菅沼伊之助

大泊町役場

町長　松尾鑛治
助役　尾張吉治
收入役　窪田顯太郎

大泊町會議員

（順序不同）

大野順末　小瀧四郎五郎
瀧口松太郎　寺澤運治郎
山內榮磯　坂倉敏雄
竹下正雄　水野四郎
本山好松　辻末次郎
梶榮太郎　種田德彥
井田良三　熊谷堅藏
越川良造　重富剛策
小笠原源次郎　中村久五郎
岡野啓朔　高島馬二七
吉川平八　川尻敬助
神代正治　秋山彌穗造
室山福次郎　田邊庄次郎
早川權兵衛　尾形市兵衛
半田午吉　白岩龜二

大泊商工會議所

會頭　大野順末
副會頭　小瀧四郎五郎
理事　須藤光俊

大泊商工會議所議員（議席順）

片川與三郎　安羅五右衛門　村井仲之助
鹽田源次　米倉友治　本井幸吉
堂前外吉　中田吉二　田邊庄次郎
久保田眞佐雄　大野順末　小瀧四郎五郎
早川權兵衛　藤堂修三　柴外次郎
丸谷俊雄　富田又治郎　小俣徹
古田要次郎　谷村彌作　越川良造
神代正治　宮澤友治郎　水內梅吉
佐々木勝造　秋山彌穗造　梶榮太郎
菊谷丑之助　熊谷堅藏　八木政治

顧問　園田榮五郎　同　秋山晴雄
同　扇田彦助　同　山內榮磯
同　川上德太郎

樺太廳大泊醫院

中島忠
井上進
菊地武雄
江副一三
小野貞幹

樺太廳觀測所

所長　重富剛策
大泊町

大泊中學校

校長　藤田弘一

大泊高等女學校

校長　川崎武親

大泊尋常高等小學校　校長　長尾政雄
船見尋常小學校　校長　佐藤清三郎
旭ケ丘尋常小學校　校長　有江巖
楠溪尋常小學校　校長　石井德一郎
古牧尋常小學校　校長　堀一良

大泊郡

千歲村役場

村長 菊池馨
收入役 前田源彥

千歲村々會議員
保古重信
佐藤已四郎
松村豊吉
木村恒藏
吉田茂四郎
肥田正彥
番場長八
馬淵吉五郎
本多松次郎
菅原安藏
菅野芳藏
松浦庄助

千歲尋常高等小學校
校長 菊池其次男

千歲村郵便局
局長 肥田政彥

千歲村消防組
組頭 佐藤巳四郎
第一部頭 越田龜五郎
第二部頭 布袋初太郎
第三部頭 缺員
第四部頭 小林勝太郎

大泊郡

深海村役場

村長 中川重成

深海村々會議員
德澤吉英
佐々木豊喜
植村文之丞
泉嘉七
長尾竹五郎
田中豊太郎
横内豊次郎
榊林之助
坂本三太郎
梅澤金藏
會見市太郎
佐々木和三郎

深海村女麗郵便局
局長 小川政次郎

深海尋常高等小學校
校長 高橋幸高

富内郡

富内村役場

村長 山本秀幾
收入役 杉本荒次郎

富内村々會議員
濱野志道
細川庄吉
岡田八市郎
岡林只八
小川正連
吉本德重
田代源吾
辻七之丞
村松盛家
佐藤留吉
齋藤信平
樋口留八

富内村郵便局
局長 葛西猛千代

富内巡査部長派出所
巡査部長 松浦米作

富内尋常高等小學校
校長 横田良一

長濱郡

知床村役場

村長 高橋安兵衛
收入役 齋藤寅一

知床村々會議員
渡邊彥次郎
根本直吉
經澤十六助
增井啓次郎
後藤清作
天野起山
畠山東一郎
古川勳
坂木力
其浦兼松
小田善六
永橋和長

樺太大泊町

樺太共同漁業株式會社

社長　平塚常次郎

常務　園田榮五郎
常務　上村宇多彌
常務　增田久作
支配人　服部公治
事業課長　片岡壽龜
經理課長　鹿島勝彦
庶務課長　池田吉雄

王子製紙

大泊工場

工場長　秋山晴雄
工場長代理　山本猪藏
庶務係長　金庭秀松
工務係長　稻永勝次郎
會計係

王子製紙樺太分社

山林部大泊出張所

主任　篠原爲一

樺太寒天合資會社

大泊町富士
富士第一工場
女麗第二工場
遠淵原料採取場

純粹加奈陀種
銀黑狐
優良多產種狐
優良毛皮販賣

大北產業株式會社

本社　東京市吳服橋鴻池ビル五階
飼育場　樺太大泊町千歲村貝塚

樺太大泊二六番

北 北日本汽船株式會社

株式會社 樺太銀行

株式會社 森田商會

通 樺太合同運輸株式會社

二 西谷海運株式會社

北 樺太運輸株式會社

樺太廳大泊郵便局

局長 中山安麿

樺太養狐株式會社

本社 東京市品川區大崎本町一ノ五五

飼育場 樺太大泊町大字一ノ澤

金物商 宮澤友次郎

樺太大泊町榮町

吉川商會

大泊榮町大通り 電話三二六番

吉川平八

自宅本町大通り六 電話一〇九番

王子製紙株式會社專屬

造材業 遠藤小一郎

樺太留多加町

王子製紙株式會社專屬

造材業 中井淺之助

樺太留多加町

北一

樺太運輸株式會社

樺太大泊町

土木建築請負業

佐々木組

佐々木勝造

大泊町本町東二條

電話七七四番 七七五番

船具漁具銅鐵

田邊商店

田邊庄次郎

大泊本町大通り二三

電話三七番

營業科目 內外木材輸出入業 船舶海運業

增田合名會社

本店 小樽市 山ノ上町

支店 東京市 深川區

出張所 大泊 名古屋

王子製紙株式會社

樺太分社山林部專屬請負

造材業

竹林陽太郎

樺太大泊町

王子製紙株式會社

樺太分社專屬請負業

堂前外吉

樺太大泊町

樺太ホテル

北海屋

樺太大泊町

電話三番・四八番

榮町支店電話一七四番、三〇六番

民論を代表する

樺太言論界の權威

大北新報

本社大泊町

大泊毎日新聞社

社長 井田良三

本社大泊町

樺太大泊支廳

留多加出張所

所長 安田善次郎

留多加林務署

署長 谷川榮吉
庶務係長 宮代與重
業務係長 森本秀雄

留多加町役場

町長 會澤武夫
助役 下平森市
收入役 佐藤平次郎

留多加町會議員

村松忠和　片山貞
神代敏　鈴木桂次郎
山下梅司　前田由藏
下濱仁三郎　生井澤進
川田守與　長瀨軍司
宇城文六　奈良岡清八
鈴木庄之進　田中藤右衛門
白鳥錄太郎　佐野政太郎
大橋源次郎　工藤岩吉

留多加警察署

署長 春田長作
司法主任 鈴木權次郎

留多加消防組

組頭 向後儀三郎
副組頭 今野文三
第一部頭 服部直治
第二部頭 佐野政太郎
第三部頭 小沼松之助
第四部頭 大倉誠
第五部頭 平山繁次郎
第六部頭 田原源七
第七部頭 佐々木佐助
第八部頭 前田由藏
第九部頭 名取鶴行

留多加尋常高等小學校

校長 米內錦四郎

留多加郵便局

局長 鈴木桂次郎

造材運輸業 田中藤右衛門
樺太留多加町

長濱村役場

村長　戸塚金次郎
收入役　片桐榮吉

長濱村會議員
高島彌太郎
寺澤多七
齋藤留吉
今田重平
今由松
村松輝太郎
森山佐五郎
牧野金五郎
荒木福藏
田中龜千代
磯部芳藏
松田政二

長濱尋常高等小學校
校長　石川德太郎

長濱郵便局
局長　村松輝太郎

長濱消防組
組頭　高島彌太郎
第一部頭　牧野金五郎
第二部頭　齋藤龍次郎
第三部頭　山田哲司
第四部頭　小田島直治
第五部頭　竹內兵次郎

遠淵村役場

村長　熊瀨直吉
收入役　水野惣平

遠淵村會議員
南石太郎
福本甚太郎
香曾香部顯良
大家長四郎
篠原長次郎
小西直
佐藤梅助
篠原莊助
和泉外次郎
村田圓次郎
石戸新
隼野重太郎

遠淵尋常高等小學校
校長　木村清一

遠淵郵便局
局長　市毛子之介

遠淵消防組
組頭　中野滿次郎
第一部頭　酒谷政吉
第二部頭　和田九郎治
第三部頭　小山內慶吉

留多加郡 能登呂村役場

村長　長嶺崇

收入役　上田清治

能登呂村々會議員
辻健二
中村辰雄
渡邊作二
山岡賢次郎
清水雅一郎
後藤良衛
間所作松
佐藤末太郎
江口春之亟
西田要作
池田夏太郎
松原長松

能登呂村消防組
組頭　辻健二
副組頭　渡邊作二
第一部頭　飯田角一
第二部頭　太田定衛
第三部頭　吉田直吉
第四部頭　大平四郎
第五部頭　奥田利助
第六部頭　宮原明
第七部頭　小笠原松太郎

留多加郡 三鄕村役場

村長　後藤勇之助

收入役　佐々木隆吾

三鄕村々會議員
鈴木幸多
豊下鉄之助
松本佐太郎
黑澤清治
齋藤常男
高田作次郎
關堯介
飯沼羽市
福岡直藏
相川喜八郎
時田兼吉
阿部龜吉

樺太豊原町

樺太請負業組合

組合長 遠藤米七

資本金 五十万圓
本社 東京市麹町區内幸町三信ビル(三階)
支社 樺太海馬島

海馬島水産株式會社

役員

取締役會長 日比重雅
取締役 三浦良次
同 佐藤得四郎
同 岩城隆德
同 好田實勝
監査役 池田忠隆
同 中島以知二
相談役 伊谷澤健
鹽

日露木材株式會社

本社 東京市三信ビル内
社長 高島菊次郎
常務 關信止

豊北村小沼

豊北木工場

有限責任 組合長理事 金高孫太郎

豊北養狐信用販賣購買利用組合

理事 吉田常二郎
同 丸山奥治郎
同 柳田勝治
同 木村英雄
同 白石一清
監事 金高勘六
同 瀬川正徹
同 河野由松
書記 平林助
同 中井戸芳太郎
同 中島市治
同 和田逸郎
同 川畑勘造
同 町田房藏
同 家崎文之助
同 吉岡信雄

落合驛長

東海林恒房

樺太落合町

樺太タイムス

社長 川原田憲太郎

樺太落合町

資本金・五百万円
拂込金・五百万円

樺太電気株式會社

社長 藤原銀次郎
取締役 光澤義男
取締役主事 杉本孝作

營業所
豐原大泊留多加
眞岡敷香本斗
富内元泊落合
知取泊岸

本社 樺太豐原町大通り南六

土木建築請負業

遠藤組

遠藤米七
樺太豐原

豐原では
旅館 花屋本店
伊藤芳次郎
樺太豐原町

西洋室
日本室
新式の旅館
花屋ホテル
波邊與惣吉

樺太豐原町大通北六丁目拾八番地
樺太製藥株式會社
電話二三六四番
振替小樽九一二〇番
取締役社長 遠藤米七
專務取締役 鈴木三次
常務取締役 沖島鎌三
取締役 坂井久二
同 熊谷堅藏
同 遠藤實
同 上村宇多彌
常任監査役 太田鎭雄
監査役 本井幸吉
同 越川良造

株式會社 丸茶佐々木商店
東京市日本橋區吳服橋二丁目
電話日本橋 一九六〇・一九六一 一九六二
樺太豐原町大通り南一丁目
電話豐原 三一五五・三一五六 三一五七
樺太大泊町榮町大通り十三
電話大泊 五五・一二三番

本社 樺太豐原町
南樺鐵道株式會社
取締役社長 藤原銀次郎
常務取締役 光澤義男
主事 杉本孝作

割烹 幸亭
樺太豐原町
渡邊芳之助

割烹 金吾
樺太豐原町

鰻 角万
樺太豐原町

御料理 千鳥
樺太豐原町

樺太日日新聞社
社長 沖島鎌三
副社長 太田鎭雄

樺太印刷合資會社
代表社員 太田鎭雄
本社豐原町

東京以北隨一……樺太の誇り
一冊!! よく……樺太の事情を知悉し得る
雜誌
樺太
發行所 雜誌「樺太」社
豐原町京三條第十丁目 電話三〇五九番 振替小樽一一五三五番
一冊五拾錢
毎月一日發行

樺太每日新聞
社長 樅山眞
社主 佐々木慶一郎

株式會社 江戸ッ子商店
豐原町大通
電話 二〇〇四 二四〇〇番

落合町役場

助役 角川新一郎

収入役 千葉多賀活

議員 杉浦信二 石井幸太郎
筒井清義 片平憲治郎
清水喜平 鈴木彌一
菊地嘉龜雄 三浦常松
山崎金太郎 野川勝磨
岩井康 花上孝三
吉岡傳作 宮下義孝
渡邊一郎 川原田憲太郎
筒井秀治 後藤七太郎
小西仁三郎 井上軍次郎
里鄭豊 高橋彦作
佐藤與右衛門 安部永太郎

落合警察署

署長　諸富榮

司法主任　木幡完

落合町公設消防組

組頭　石井幸太郎

副組頭　杉浦信二

第一部頭　小川金二郎

第二部頭　松原富二

第三部頭　山木昌光

落合第一尋常高等小學校

校長　山岸清藏

同第二尋常小學校

校長　長瀧昇一

落合郵便局

局長　龜谷忍

本社　樺太榮濱郡落合町

取締役會長伯爵　奥平昌恭

專務取締役　足立正

樺太鐵道株式會社

東京出張所　東京市麹町區有樂町三信ビル内

東京出張所所長　杉浦謹次郎

總務部長　野依次郎

王子製紙株式會社
落合工場
工場長 山本省吾
事務主任 龍野良輔
庶務主任 清水喜平
會計主任 宮下義孝

王子製紙株式會社
樺太分社山林部
落合出張所
主任 菱沼勇三
筒井清義

王子製紙株式會社專屬
造材業 **吉岡傳作**
樺太落合町

太平郵便局
局長 **大倉小吉**
惠須取字大平町

王子製紙株式會社專屬
造材業 **三浦常松**
樺太落合町

王子製紙株式會社專屬
造材業 **吉岡實道**
樺太落合町

王子製紙株式會社專屬
運送業 **石井幸太郎**
樺太落合町

養狐の理論と實際

追隨・模倣・暗中摸索の
我が養狐界を照す一大光明
農林省技師 石野敬之氏校閲
アマチュアー・ブリーダーのバイブル
北 バチニラー・オブ・アーツ 高橋關晴 譯
著 菊版 五百餘頁 天金 背皮 函入 豪華
定價 三十五錢 郵稅 拾錢

詳說內容 見本進呈

郵稅提供發行
樺太 山本養狐研究所
實販 丸善書店
東京・日本橋通二丁目

島內御註文は「落合町山本養狐研究所」宛
申込願上候

樺太鐵道株式會社
總務部長 野依次郎
運輸係長 澤田健藏

樺太落合町
山口屋旅館

樺太落合町
落合館
石井幸太郎

王子製紙專屬請負業
渡邊組
樺太 落合町 渡邊彦太郎
樺太 知取町 渡邊福市

東海岸代表的旗亭
料飯 落成
割烹 思君亭
本谷弥太郎
樺太落合町

洋食 樺太一番
レストラント ライト
白樺の緑濃き葉陰に浸む赤い酒！
君よ来り給へ……ライト（！
北国情緒横溢の雰囲気……
経営者 平澤弘美
樺太落合町

割烹
胡月
樺太落合町

割烹
一二三
樺太落合町

眞岡支廳

支廳長 堀安次郎
庶務係長 鈴木清
財勢係長 首藤三男
殖産係長 菅原俊吾
視學 渡邊信市

樺太廳眞岡林務署

署長 平賀正己
業務係長 西澤武
庶務係長 高橋濟次郎

眞岡警察署

署長 阿部宗一

同消防組

組頭 畑木仁三吉
副組頭 中野常吉
第一部頭 岡崎源助
第三部頭 若杉作太郎
第四部頭 竹本淺次郎
第五部頭 大角芳太郎
常備部頭 木村豊治

眞岡中學校

校長　瓜田友衛

眞岡高等女學校

校長　谷内讓

眞岡第一尋常高等小學校

校長　野口要

眞岡第二尋常高等小學校

校長　大槻基家

眞岡第三尋常小學校

校長　松岡宗次

眞岡町役場

町長　藤田忍

助役　小濱嘉七

收入役　龍田泰

主事　森初藏

主事　吉池力作

町會議員

（順序不同）

竹田智昇　藤森朗澄

新井勇司　合田亮三

井本熊治郎　濱谷常次郎

由田與三吉　吉江友之進

木谷留次郎　山口三之助

塗師岡松太郎　川島哲太郎

鵜飼嘉一郎　石渡貞

阿部寅七　菅井鶴吉

上山音吉　相馬春治

柴田民造　菅原勇

猪股德平　宮本留吉

杉本善之助　江端駒吉

眞岡商工會議所

會頭 大橋德太郎
副會頭 藤森朗澄
理事 志鷹典
顧問 竹田智昇
畑木仁三吉
三井藤太郎
田中惣左衛門
鵜目克巳

議員
吉村善二
加藤桂一
西村才吉
濱谷常次郎
市川一郎
鵜飼嘉一郎
潮田銀次郎
江端駒吉
藤井秀吉
山本市太郎
石井善見
合田亮三
川島哲太郎
島田久四郎
木谷留次郎
高森末吉
可知五郎
西川泰吉
石淵作次郎
山田義三郎
茶木竹太郎
辻能一
本清太郎
角田義一
目黑正文
井上豊太平

眞岡區裁判所

判事 益子源四郎
監督書記 石田留雄

同 檢事局
檢事 上田薫行
監督書記 及川重助

樺太廳眞岡醫院

院長 上原一郎
內科 後藤一
外科 中村勝之助
眼科 淺野修
婦人科 村井貞寛
耳鼻科 窪田和夫
專務 高木正
藥局 木村幸一

王子製紙會社眞岡工場

工場長 澤漸
工務係長 井戸川春三
事務係長 竹田智昇

王子製紙會社專屬
造材業 中島才太郎
樺太眞岡郡蘭泊村

王子製紙會社專屬
造材業 藤田元吉
樺太眞岡郡廣地村

王子製紙樺太分社山林部
眞岡出張所
所長 日比野肇

眞岡郵便局
局長 柳澤廣市

眞岡北濱郵便局
局長 伊藤榮治

眞岡驛
驛長 吉田元屯

眞岡驛員會一同

北眞岡驛
驛長 鈴木守資

北海道拓殖銀行
眞岡支店
支店長 鵜目克巳
眞岡町本町一丁目

眞岡町榮町二丁目
樺太相互無盡株式會社
社長 江端駒吉
專務取締役 三井與市

眞岡信用組合
組合長理事 藤森朗澄
理事 中村國男

銘酒
金天狗・天狗釀造元
江端酒店
江端駒吉
眞岡北濱町
電話一一五番
南濱賣店
電話一三六番

米穀雜貨問屋
大橋德太郎商店
眞岡本町二丁目
電話四五・六七番

海產雜貨商
銘酒 國華 不二釀造元
醬油金印釀造元
株式會社 畑木商店
眞岡本町二丁目
支店 本斗町大通七丁目
蘭泊驛前

眞岡郡

廣地村役場

村長 中川陸司

收入役 志村泰二郎

廣地村會議員

（順序不同）

本間正藏　今泉三太郎

笹森梅次郎　吉田源藏　太田長吉　佐藤太治郎　平野周吉　上口市太郎　川村初藏　加古嘉吉　瀧澤由太郎　竹浜兼一

廣地郵便局

局長 伊與田爲資

廣地尋常高等小學校

校長 小野寺惣四郎

公立苫舞小學校

校長 山本竹次郎

公立大穂泊小學校

校長 奈良清

公立多蘭泊小學校

校長 門脇良一

眞岡郡 清水村役場

村長 國木政雄

清水村々會議員

兼本文太郎　平田八右衛門　佐藤宅麻　松本重明　福田益三　佐々木清治

笠原文二郎　渡邊彌作　小笠浜正衛　大浜新次　牛渡龜子　佐藤誠

清水村二股郵便局

局長 柴内道三

清水小學校

校長 西山秀市

逢坂小學校

校長 加藤覺右衛門

二股小學校

校長 宮塚敏榮

瑞穂小學校

校長 渡邊賢三郎

逢坂郵便局

局長 廣瀬貞

逢坂驛

驛長 伊藤竹松

清水驛

驛長 坂田信一郎

眞岡郡蘭泊村

村長 岡田藤吾

收入役 村尾金平

蘭泊村村會議員

石井四郎　半澤藤吉　河中慶次郎　加藤直藏　吉田豊治　高野清晴　竹内正午郎

田村勝太郎　内館藤太郎　工藤豊吉　山口榮太郎　松原庄次郎　青木與市郎　青塚勇　佐久間喜四郎　佐々木藤太郎　三宮菊三郎　清水榮次郎

蘭泊尋常高等小學校

校長 大武留男

外職員一同

蘭泊郵便局長 笹原留之介

蘭泊驛

驛長 大鹽末藏

蘭泊巡査部長派出所

三浦一二

同

組頭 消防組 近藤賢治

第一部頭 内館藤太郎

第二部頭 島田甚七

第三部頭 工藤豊吉

第四部頭 島田才治郎

第五部頭 吉田榮太郎

野田郡

小能登呂村

村長 高橋安兵衛

小能登呂村々會議員

土屋洪治　川久保安太郎　吉田清五郎　葛西菊太郎　引地留四郎

竹内美登　伊野幾馬　山田音五郎　佐々木駒次郎　石川長太郎　堀川弘輝　片岡敏雄

小能登呂郵便局

局長 淺川喜教

小能登呂第一小學校

校長 龜田元次郎

小能登呂第二小學校

校長 布施伊治

小能登呂第三小學校

校長 三上金作

小能登呂驛

驛長 後藤藏

小能登呂巡査部長派出所 鹽崎勝次

樺太産業株式會社

眞岡町字本町一ノ二〇
北海道拓殖銀行支店内

工場所在地
眞岡、野田、大吠、菱苫、内幌
廣地、苫舞、島泊、杜遠、比奈
珍内、鵜城、久春内、武意泊

樺太木材株式會社

眞岡郡蘭泊村
電話三一番

専務取締役 社長 河中慶次郎
取締役 近藤賢治
同 井本熊治郎
同 金野卯平
同 三國紋次郎
同 田村勝之助
同 佐々木喜兵衛
同 瀧澤市郎
監査役 青塚仁助
同 青塚與市郎
同 佐久間喜四郎

眞岡町漁業組合

共同魚市場
電話六三三番

組合長理事 中野常吉
同 大川富三郎
同 竹本淺次郎
監事 上田音吉
同 高岡清次郎

樺太時事新聞社

社長 栗岡己八
眞岡山平町

木材業
龜田出張所

白井爽風
眞岡仲ノ町三丁目
電話二六四番

製粉業
樺太製粉株式會社

樺太北進新聞社

社長 川崎和一郎
眞岡北濱町二

高等旅館
百足屋旅館
眞岡町榮町一丁目
電話 六四〇 六二〇 五一九番

旅館
菫館
眞岡町榮町一丁目
電話 長一七・二八 六二一番

割烹
高田家
高田佐一郎
眞岡町榮町一丁目

湯ノ澤温泉旅館
高田松治
眞岡郡明牛

眞岡郡野田役場

町長 小野豊實
助役 平本時助
收入役 川崎郎

野田町會議員

（順序不同）

佐藤卯吉　垂井仁佐
長谷川又次郎　山根正二
長津大貳　横谷政一
川島孝一　深本米藏
山本儔　杉本八次郎
牧口友吉　黑田雪

野田警察署

署長 鍛冶齊

公設野田消防組

組頭 古川才吉

野田驛

驛長 大久保伊三男

野田郵便局

局長 長谷川時藏

王子製紙株式會社
野田工場
工場長 炭礦部監督 打保常次郎
會計係長 王置一郎

王子製紙株式會社
樺太分社山林部
野田出張所
主任 岡田武雄

株式會社 **北海道拓殖銀行**
野田支店
支店長 高橋英雄
野田町大通
電話三四番

樺太新報社
長社 西田馨
野田町

久春内村

村長 **下平森市**

久春内村々會議員（イロハ順）
波間蔦次郎
新妻富次郎
西田幸次郎
保知清吉
玉水蔦次郎

佃村忠作
中染瀬秋市
小林吉藏
天満治三郎
佐々木孫衛門
宮田鶴嶺

久春内巡査部長派出所
寺西一郎

久春内消防組
組頭 新妻富次郎
一部頭 宮崎藤次郎
二部頭 佃佐市
三部頭 玉水蔦次郎

久春内尋常高等小學校
佐藤豊次郎

久春内郵便局長
安江秀一

名寄村

村長 **舟生秀吉**

名寄村々會議員（順不同）
穴田龍太郎
生駒三藏
相場留七
河野善治

飯野亮三
成一兼熊之助
赤妻林次郎
和田重助
石塚勝治
宮原小七郎
三浦作次郎
水野重次郎

名寄巡査駐在所
小館金作

名寄村消防組
河野善次

名寄尋常高等小學校
校長 牧野琢磨

名寄郵便局
局長 矢田部彦三郎

泊居支廳

支廳長 北村得三

財務係長 川守田康一
殖産係長 高野雅夫
庶務係長 末松稔
視學 根來毅

泊居林務署

署長 松澤敏男
業務係長 市川正
庶務係長 對馬忠作

泊居警察署長 高橋近一

泊居消防組

組頭 篠原玉之助
第一部頭 寺林秀
第二部頭 後藤藤太郎
第三部頭 川崎吉松

泊居町役場

町長 小原正義
助役 仲倉靜男
收入役 小磯爲太郎

泊居町會議員

（イロハ順）

石牛金金川村魚岡大柳丸藤福高五後榎寺三三篠森鈴
澤川 十默 二次 吉勤要代 次次次次 四 英 義 次 正 太 治俊 九之 清一
田山崎 井 喜條英政由 茂 藤富 太次 東玉 木
谷山居本 茂 田 島菊 崎宅 藤本 上原
郎郎郎吉藏松治郎郎郎賢郎郎信郎一郎郎策藏郎助保二

王子製紙泊居工場

工場長 金子三明
工務係長 三輪次武
事務係長 高菊次郎

王子樺太分社山林部泊居出張所
主任 中平信吉

王子製紙會社專屬
請負業 佐藤事業部
泊居千歲町四丁目
電話三十五番

王子製紙會社專屬
請負業 森一保
泊居高砂町電話三十二番

王子製紙會社專屬
造材業 古村啓太郎
樺太泊居町相生町

王子製紙會社專屬
造材業 河野善治
樺太泊居町字名寄村

王子製紙會社專屬
造材業 加賀谷彦三
樺太泊居町千歲町

王子製紙會社專屬
造材業 玉水蔦次郎
樺太泊居町久春内

泊居支廳鵜城出張所

所長 池田誓喜知

泊居高等女學校
校長 花田康三

泊居工業補習學校
校長 清水敏一

泊居尋常高等小學校
校長 松永幸市

泊居商工會

會頭 魚谷粂次郎
副會頭 中西岩吉

泊居郵便局
局長 田鹿恭司

鵜城村役場

村長 田中七次郎
收入役 山本清之助

鵜城村會議員（イロハ順）

花澤種吉
新關豊之助
横山惣次郎
玉置周弥
奈良勇吉
奈良德助
村上義光

公立鵜城尋常高等小學校
校長 田澤正一

鵜城村幌千小學校
校長 新井菊太郎

鵜城村幌岸小學校
校長 本郷勝則

鵜城村巡査駐在所
柏村豊吉

矢島信也
岸水義男
野尾健次
鈴森平
妹尾粂次
木

公設鵜城消防組

組頭 金森政治郎
副組頭 遠藤敬次郎
一部頭 阿保得美

鵜城郵便局
局長 太田精一

公立興庭尋常小學校
校長 稲野邊勇次郎

公立内胡尋常小學校
校長 峰村長治

公立幌千尋常小學校
校長 稗田完二

三濱村役場

村長 深井德

三濱村會議員（イロハ順）

乾和矢山増小江佐境
田戸口澤黒泉藤彌藤
猛德健勝正
藏長忠太三
次太郎郎郎彰郎作吉郎雄作一

佐野汎藏
佐々木清助

三濱村消防組

組頭 小黒勝太郎
一部頭 新谷與平
二部頭 矢戸健次
三部頭 佐野汎藏
四部頭 池孝一
五部頭 菊田德太郎

久春内郡三濱村留久志郵便局
局長 倉田健吉

三濱村珍内郵便局
局長 伊藤義内

王子製紙會社專屬
造材業 麥谷新吉
三濱村留久志

王子製紙會社專屬
造材業 增澤長作
三濱村留久志

珍内電燈株式會社
社長 小泉忠彰

土木 建築
設計 製圖 請負業
寺崎組
寺崎治作
泊居町松ヶ枝町一丁目
電話(自宅用)三四〇番
製材並に賃挽 寺崎製材所
寺崎組配給所
電話三五七番

北日本汽船株式會社代理店
太阪海上火災保險株式會社代理店
日本海上保險株式會社代理店
株式會社 泊居回漕店
泊居濱町二丁目二番地
電話八番、三一九番
電略「トマ」又ハ「ト」

泊居町末廣町二丁目
割烹 玉家
電話十六番 十七番

王子製紙會社專屬
請負業 丸福事業部
福範經
樺太泊居町

樺太名好郡西柵丹
内外汽船株式會社
西柵丹事業所 澤田利秋
小池照太郎
立岩事業所 佐藤虎男
渡邊渉

惠須取町役場

町長　稲垣敏雄
助役　和田藤太郎
收入役　大島周造

惠須取町會議員

長谷部愿
伴敷五
李正
小仙
大長
大正
高
中
倉
黒
眞
前
古
小
澤
宮
宮
三
三
三
樋
清
杉
村野口
明輪
浦崎
本
田
林
市
島
壁
澤
橋
川
村
塚
泉
田
富
繁
與善
康
眞
末
四
善
太
啓
甚
爲
純
五
太
之
太
作
司
武
操
助
作
郎
郎
郎
郎
郎
郎
郎
郎
郎
郎
郎
郎
郎
郎
郎
郎
郎
勇
世
作
郎
平
治
一
郎
吉
助
郎
造
郎
溫
郎
作
助

惠須取警察署

署長　鹿又敬次郎
司法主任　久津呂寅松

惠須取公設消防組

組頭　高村純平
副組頭　樋口武
第一部頭　大玉長太郎
第二部頭　宮古悅郎
第三部頭　宮崎增太郎
第四部頭　澤田眞造
第五部頭　本田那吉

惠須取郵便局

局長　男澤猛

惠須取第一尋常高等小學校
校長　丸山健兒

惠須取第二尋常高等小學校
校長　三島利義

惠須取林務署

署長　上村政五郎
庶務係長　村上貞助
業務係長　竹內直助

惠須取商工會

會頭　太田市太郎

王子製紙惠須取工場

工場長 相馬末吉

工務係長 齋藤孝

事務係長 眞壁太吉

王子樺太分社山林部
惠須取出張所

所長 原田悅治

大平炭鑛事務所

所長 今村俊

惠須取町天内

惠須取炭鑛株式會社

王子製紙會社專屬

造材業 石井友衛

王子製紙會社專屬

造材業 畠山清吉

王子製紙會社專屬

造材業 畑中長五郎

王子製紙會社專屬

造材業 澤田眞造

王子製紙會社專屬
造材業　三上喜一郎
樺太惠須取町

王子製紙會社專屬
造材業　吉田重治
樺太惠須取町

王子製紙會社專屬
造材業　井口太三郎
樺太惠須取町大平

王子製紙會社專屬
造材業　佐野惠策

王子製紙樺太分社山林部名好出張所
主任　川合清行

王子製紙樺太分社山林部專屬
請負業　西川嘉吉

王子製紙樺太分社山林部專屬
請負業　淺見良太郎

名好電氣株式會社
太樺名好村

名好村

村長 高橋寅之助

名好村々會議員（順序不同）

鶴見才三郎
鈴木義平
阿部章
大原五郎
秦學
河田力
菊田雄藏
岩瀨源三郎
黃金三郎
三孟喜藏
村田宇一郎
田代喜代次

名好郵便局
局長 堀口芳松

名好尋常高等小學校
校長 宮坂茂樹

名好部長派出所
田中盛藏

名好消防組
組頭 鶴見才三郎
副組頭 諏訪新五郎

樺太
西海新報社
岡山英次郎
樺太泊居町

樺太日報社
社長 齋藤由吉
泊居町南本町四

王子製紙會社專屬
造材業
宮下康太郎

王子製紙會社專屬
造材業
椎谷直太

王子製紙會社專屬
造材業
杉山國造

惠須取每日新聞社
社長 山浦運
副社長 西谷彰

本斗支廳

支廳長 中村鷹祐

財務係長 平野文吉

殖産係長 小原正義

庶務係長 三井清英

視學 益子文夫

本斗林務署

署長 長谷川榮吉

庶務係長 松山正猪

業務係長 中山利郎

本斗警察署

署長 長谷川四朗

司法主任 吉田貞吉

本斗公設消防組

組頭 土永喜太郎

副組頭 宇野金三郎

第一部頭 後藤孝次郎

第二部頭 德田一勝

第三部頭 鳴海幸助

第四部頭 田中梅次郎

第五部頭 本間文治

本斗町役場

町長 長雄倉松

助役 松尾善吉

收入役 藤森益美

本斗町會議員

（議席順）

土門爲次郎　安田啓作　畑中義朝　藤田淺五郎　米山清治　山城新左衛門　花田增次郎　高橋卓　石井宗男　廣瀨豐太郎　加藤悌吉郎

梅木宥善　松村重利　荒岡弓之助　藤森正隆　庵原英一郎　坪田重太郎　森塚源喜　渡邊直次　佐藤鐵太郎　合田淺吉　大谷泰次郎

本斗郡本斗驛

驛長 越谷喜多郎

本斗郵便局

局長 曾根勘太郎

本斗小學校長 進藤梶三

白主小學校長 小池正夫

菱苫小學校長 箱崎義江

宗仁小學校長 小島寛

内幌小學校長 江利豊吉

本斗郡好仁村

村長 三浦義男

好仁村會議員（順序不同）

櫻井輝光
石田常勝
辻森駒吉
鈴木與太郎
齋藤原之助
森井半藏
猪源太一郎
庄内利兵衛
藏本米藏
大久保卓三郎
岡傳次郎
竹田小三郎

好仁尋常高等小學校

校長 佐藤虎五郎

好仁村十和田郵便局

局長 林寅藏

好仁村南名好郵便局

局長 石田常勝

同消防組

組頭 深坂源太郎
第一部頭 蛯名字作
第二部頭 長谷川二三
第三部頭 遠藤傳助
第四部頭 藏本米藏

本斗郡内幌村

村長 水野綱吉

内幌村會議員

山崎兵次郎
菱沼橘
笹島平太郎
野村喜市
今村昇
常包恒太
木村萬次郎
後藤弘治
佐久間重治郎
柳谷隆治郎
池田彊
坂井忠一郎

内幌郵便局

局長 小澤賢梧

内幌尋常高等小學校

校長 竹田信弘

内幌巡査部長派出所

巡査部長 神成義定

公設内幌消防組

組頭 後藤弘治
副組頭 白幡鶴吉
會計 荒谷久司
第一部頭 鎌田金藏
第二部頭 岩田太一
第三部頭 石川豊藏
第四部頭 綱谷德太郎

海馬村役場

村長 葛岡丑吾

海馬村評議員

議長 岩田直人
山崎彌作
河端清三郎
竹田砂
畑中重太郎
二見寅吉
佐藤倫
小野祐松

海馬村第一小學校

校長 木村秀雄

同 第二小學校

校長 吉池眞澄

海馬島郵便局

局長 橋本忠雄

同 巡査駐在所

三木次郎市

同 消防組

組頭 小野光一郎
第一部頭 橋本甚太郎
第二部頭 大宮清

本斗町漁業組合

理事 畑忠次郎
同 土門爲次郎
同 安倍喜平
監事 鈴木清作
同 蓬萊谷清

本斗町南漁業組合

理事 長雄倉松
同 笠井千代藏
同 池田岩藏
監事 大黒熊太郎
同 齊藤武一

本斗町遠節漁業組合

理事 佐々木八十吉
同 藤田龜吉
同 廣瀨豊太郎
監事 上瀧源次郎
同 荻野豊次郎

本斗海陸運輸株式會社
樺太本斗町

王子製紙會社專屬
造材業 畑中義朝
樺太本斗遠節澤

御料理
金澤樓
樺太本斗町中通二丁目
電話一八番

本斗ホテル
北川旅館
樺太本斗町
電話本斗七番
電話二一四〇番
電略(〇キタ)又ハ(〇)

所長 戸田熏一
三井鑛山株式會社
川上鑛業所
樺太川上

昆布茶
健康の泉・精力强壯劑
マンノン
マンノン・日の本
製造種目
昆布・日持昆布
胡麻塩昆布
海苔其他
海產加工品
山口商事株式會社
社長 山口千代
工場 樺太本斗郡白主
出張所 東京市王子區王子町
電話王子〇三四九番

內幌炭礦鐵道株式會社
內幌炭坑
內幌鐵道事務所

樺太新聞社
社長 吉澤福治
本斗町大通り八

元泊支廳

支廳長　森直太郎
庶務係長　藤本信一
財務係長　山村良作
殖産係長　川端操
視學　石井敬次

樺太廳元泊林務署

署長　庄司彌造
庶務係長　秋山誠三
業務係長　窪谷嘉辰

元泊警察署

署長　河合次郎

元泊消防組

組頭　齋藤一男
一部頭　菊地恒七
二部頭　竹田武男
三部頭　成松直人
四部頭　荒木皆治

元泊村役場

村長　山越和四郎
收入役　竹田源次郎
議員　篠崎喜一
成松久次郎
宮野長三郎
澁田昌太郎
齋藤省平
片岡喜蘇雄
野畑庄吉
齋藤一男
飯塚健太郎
島中與太郎
山田準造
勝部清憲
辻畑圓治
太田福次郎
菅原平三郎
澤田八太郎

元泊小學校長　岸兼吉
元泊郵便局長　篠原良衛
樫保第一小學校長　松永幸一
同　第二小學校長　渡部助治
同　第三小學校長　谷儀雄
登帆小學校長　井口彌作
登帆郵便局長　菅原弘治
樫保郵便局長　寒川井正孝
田中常吉
山田準造

帆寄村役場

村長　長島兵次郎
收入役　佐藤德光
議員　高平春雄
鈴木源太郎
坂本作次郎
小田原千代松
齋藤庄藏
杉野三九郎
小山鼎
佐々木榮作
中島由吉
富山巖
千葉隆昭
柳謹藏

消防組頭　齋藤庄藏
一部頭　富山巖
二部頭　山谷豊次郎
三部頭　畑井仁兵衛
四部頭　關三郎
五部頭　安原與三
馬群潭第一小學校長　山田清次郎
同　第二小學校長　菅井喜三治
馬群潭郵便局長　佐藤慶藏

知取町役場

町長　三宅貞太郎

助役　坂本左右吉

收入役　高畑千之介

知取町會議員

議長　水永毅

副議長　一戸要吉

（イロハ順）

朴昌俊　富田德雄
百目木智讓　豊田德五郎
大村健彦　渡邊福市
金子熊治　高橋直治
高月茂　曾我正一
村上簾助　植田誠一
遠藤彦悅　山蔦林七
丸山進　兒玉盛造
越川石太郎　森元與三吉
森本龜次　秋山五郎
坂本勇平　榊原三藏
齋藤寅二郎　齋藤德藏
三田安次郎　木下房三
宮本約翰　三浦運吉

知取商工會議所

會頭　秋山五郎
副會頭　五十嵐哲四郎
理事　加藤喜三郎

議員

百目木智讓　大鋸友吉
牧野廣吉　富田德雄
武田覺太郎　結城潤生
森米次郎　金高孫一
中山誠　澤勘右工門
三津木利德　越川石太郎
山蔦林七　曾我正一
三浦龜男　稻原秀行
丸山進　高見辰二
宮本約翰　臼井藤喜
藤塚永吉　松田永太郎
田中芳太郎　細坪久一

知取警察署

署長　鈴木長太郎

司法主任　近田政義

公設知取消防組

組頭　森元與三吉

第一部頭　森米次郎

第二部頭　三津木利德

第三部頭　小島幸一郎

第四部頭　齋藤德藏

第五部頭　三浦運吉

知取第一尋常高等小學校長
野坂長次郎

知取第二尋常小學校長
工藤治郎

知取第三尋常小學校長
佐藤政藏

知取第四尋常小學校長
土井源治

知取郵便局
局長 三浦小四郎

知取濱町郵便局
局長 山本繁作

樺太元泊郡知取町
有限責任 知取信用組合
電話四五九番

越川忠昭
樺太知取町

樺太知取榮町二
樺太印刷所
百目木智讓
電話三六番

秋田木材株式會社
矢向事業所
主任 村田德太郎
會計 三澤正敏
樺太知取町矢向

樺太知取町

大鋸回漕店

大鋸友吉

樺太知取町

秋山酒造合資會社

秋山五郎

樺太元泊郡知取町

樺太電氣株式會社

知取營業所

電話一六五番

主任小熊作造

北海道拓殖銀行

知取支店長

大櫛仲藏

樺太知取驛長

村上簾助

王子製紙株式會社
知取工場
工場長 山内幾馬
事務主任 水永毅
庶務主任 富田德雄
會計主任 武田新太郎

王子製紙株式會社
山林部知取張所出
所長 谷村進
尾崎釧
兒玉盛造

登帆炭礦株式會社
知取礦
礦長 赤迫三代藏
事務主任 榊原三藏

王子製紙會社專屬
請負業 臼井組
臼井藤喜
樺太知取町

王子製紙會社專屬
造材業 金子熊治
樺太知取町

王子製紙會社專屬
造材業 植田組
植田誠一
樺太知取町

王子製紙會社專屬
造材業 泉與作
樺太知取町

王子製紙會社專屬
造材業 中里廣
樺太知取町

王子製紙會社專屬
造材業 馬場宇之吉
樺太知取町

王子製紙會社專屬
造材業 笠間義之助
樺太知取町

王子製紙會專社屬
造材業 深瀨秀穗
樺太知取町

王子製紙會社專屬
樫保直營事業所
尾形眞鄕
樺太元泊村樫保

東樺日日新聞社
樺太東海岸言論界の權威
社長 一柳直一
樺太知取町

王子製紙會社專屬
造材業 坂本厚
樺太知取町

樺太大泊町
木材業 白岩龜二
電話六三四番
事業所 東海岸近幌

樺太朝日新聞社
社長 安田長一郎
樺太知取町

樺太知取町初音町

割烹 一二三

小崎ヨネ

電話三一二番

割烹 白鶴

本店 樺太知取町

支店 樺太敷香町

代表者 北川萬吉

樺太知取町初音町

割烹 大正亭

位高安平

電話一六二番

ソシヤールサロン

知取會館

川島悌一

樺太知取千歲町三

電話四五八番

樺太知取町初音町

洋品 カナメヤ

五十嵐哲四郎

電話三四四番

洋品タナカ

營業課目

洋物・小間物・化粧品
裝身具・文具・玩具
クレー化粧料代理店
クラブ化粧料代理店
富士印紙文具發賣元
明治生命保險代理店
東邦火災保險代理店

田中芳太郎

本店 樺太知取町初音町三番
電話一二八番
分店 樺太知取町代萬町一北番
電話一二七番

米穀雜貨保險代理

合名會社 梅屋商行

丸山進

樺太知取町初音町一丁目

樺太知取町千歲町

千歲屋旅館

辻博雄

（知取驛前）

株式會社 吉川農場
知取町大鵜取

合資會社 知取木工場
知取町千歳町
電話二八番

三井專屬 吉川造材部
電話三八番
代表社員 吉川繁太郎

木材輸出專門
合資會社 中卯商會
本店 小樽市
代表社員 有松鐵三
樺太事業所 樫保、東柵丹、敷香、廣地、糸音

樺太東海岸元泊港
木原造材部
元泊事業所
珍田彦三郎

飯塚健太郎
樺太東海岸元泊港

北洋毎日新聞社
社長 高月茂

雷印刷所
樺太知取町

樺太廳敷香支廳

支廳長 河井智茂

庶務係長 花谷淺次
殖產係長 橋浦哲郎
財務係長 貫和清松

敷香林務署

署長 佐々木文彌

庶務係長 神田萬次郎

敷香警察署

署長 增水勘助

牛田澤派出所

警部補 千葉新吾

公設

敷香消防組

組頭 古田留三郎

部頭 茂木文吉

第一部頭 能登勝正

樺太敷香町役場

町長 鈴木朝次郎

助役 佐藤寅三

收入役 中村孝一

敷香町町會議員

大泉卯八　山口寅造
作佐部蔚　白方幸一
五十嵐勇　乳井善藏
折戸惣市　仲屋常吉
千葉長兵衛　平野貫司
島谷榮二郎　佐藤政雄
柏木藤吉　福田與吉
陳裕福　吳鶴伊
千葉常雄　兒玉八之丞
森逸郎　蜂屋富四郎
茂木文吉　佐々木親次
齋藤三代吉

敷香第一尋常高等小學校
大和義郎

敷香第二小學校
田中武次

敷香郵便局
局長 大和榮三

敷香商工會
會頭 片山小彌太
副會頭 久保勇二郎
書記 松見勇男

木材製材業 大泉對山
樺太敷香大泊
主要事業
大泉製材販賣部
大泉建築請負部
大泉燈材山林部
工場所在地
大泊木工所
敷香木工所
上敷香木工所

泊岸村
樺太木材株式會社
常務取締役 小林準一郎
取締役 高島菊次郎
同 柳貞吉
同 光澤義男
同 梅澤源吉
樺太作業所
主任 中井武雄

樺太木材株式會社專屬
森本組 森本角右衛門
樺太東海岸泊岸港

樺太木材株式會社專屬
淺野組 淺野辰之助
樺太東海岸泊岸港

樺太木材株式會社專屬
土肥組 土肥庄太郎
樺太東海岸泊岸港

散江村役場

村長　本郷健三

散江村評議員

古木鐵太郎
保田藤作
佐藤祝夫
木田正春
林源彌
綱淵作次郎
前畠二十
中本治一
松下辰雄

散江郵便局
局長　秋濱告三

散江能登消防組
組頭　田森勝作

王子多來加事業所
谷野直吉

樺太中央運送代理店
國際通運株式會社取引店

公認
東海運輸株式會社

樺太元泊村
社長　山際競

日本人絹パルプ株式會社
敷香工場建築事務所

日本人絹パルプ山林部
主任　五十嵐勇

東京市京橋區銀座三ノ四
秋田木材株式會社

秋田木材株式會社
樺太出張所
主任　石永兼可
樺太敷香町

創立昭和五年四月一日
資本金四萬六千圓(全額拂込)
樺太廳免許
敷香無盡株式會社
樺太敷香町　電話六五番

社長　田栗德太郎
取締役　同　田森理一郎
同　吉岡信平
同　秋元卓一
回　同　久保勇次郎

同　平野貫司
同　長谷部敬一郎
同　蜂屋富四郎
曾　我浦三郎

王子製紙株式會社專屬
造材業 **本間廣吉**
樺太東海岸泊岸

王子製紙株式會社專屬
造材業 **市岡源藏**
樺太東海岸泊岸

王子製紙株式會社專屬
造材業 **大村吉之助**
樺太東海岸泊岸

樺太東海岸泊岸村
常世病院
泊岸村會議員 常世修次

王子製紙株式會社專屬
造材業 **金山久助**
樺太落合町

王子製紙株式會社專屬
造材業 **井上進**
樺太泊岸字新問

王子製紙株式會社專屬
造材業 **氏家幸四郎**
樺太內路村
電話二三番

王子製紙株式會社專屬
造材業 **高橋善吉**

東樺鐵道株式會社
專務 北澤登

敷香木材業組合
幌内川流送組合
樺太敷香町
組合長 横田秀松
書記長 作佐部蔚

木材業 横田秀松
樺太敷香町
電話四八番
振替小樽一四九八五番

米穀雜貨
卸小賣 横田商店
樺太敷香町宮通り
電話二一八番

敷香運輸株式會社
電話一二七番
三三〇番
社長 茂木文吉
專務 鈴木幸三郎
取締役 竹越慶吉
同 川畑松平
同 伊藤子之吉
監査役 新井善茂
同 石田清治

北斗軌道資合會社
代表社員 曾我浦三郎
樺太敷香町小松通り

樺太香敷町
德田病院
院長 德田寛
醫學博士 中西林藏

事業科目 電氣供給、炭水供給
製函並に建築用製材
高梨芳太郎

樺太
高梨商事株式會社内路事業所
本社 事業所 大泊 内路港

社長 鎌田正三

敷香 トラック會社

樺太敷香町

造材業

森島東

樺太東海岸泊岸村

越智木材店

樺太敷香町

造材業

遠藤福夫

樺太敷香町

王子製紙株式會社

大榮炭礦事務所

社長 渡部孝一

樺太名寄村大榮

所在地 樺太內幌

三菱鑛業株式會社

內幌低温乾溜工場

小樽橋本組

小樽市錦町三十四番地

電話 八二二番

橋本博介

樺太事務所 樺太豊原町

東京事務所 三菱二十一號館五階

電話丸內一六一一番

留多加郡
能登呂村役場
村長 長嶺 崇
收入役 上田清治
能登呂村々會議員
辻 健二
中村辰雄
渡邊作二
山岡賢次郎
清水雅一郎
後藤良衛
間所作松
佐藤末太郎
江口春之亟
西田要作
池田夏太郎
松原長松

能登呂村消防組
組頭 辻 健二
副組頭 渡邊作二
第一部頭 飯田角一
第二部頭 太田定衛
第三部頭 吉田直吉
第四部頭 大平四郎
第五部頭 奥田利助
第六部頭 宮原 明
第七部頭 小笠原松太郎

留多加郡
三郷村役場
村長 後藤勇之助
收入役 佐々木隆吾
三郷村々會議員
鈴木幸多
豊下鉄之助
松本佐太郎
黒澤清治
齋藤常男
高田作次郎
關 堯介
飯沼羽市
福岡直藏
相川喜八郎
時田兼吉
阿部龜吉

株式會社
山中商店
樺太敷香支店

樺太敷香町
敷香病院
公醫院長 大和喜一郎
醫學士 田澤止郎

樺太電氣株式會社
敷香事業所
所長 山口善之
外所員一同

小樽市稻穂町
木材業 株式會社 新宮商行
專務取締役 坂口茂次郎
取締役 西圭二郎
樺太敷香出張所
主任 近藤時次

樺太敷香港

鵜澤回漕店

支配人 福村景豊

電話五七番

敷香請負業組合

組合長 片山小彌太

京都帝國大學樺太演習林（泊岸）

主任 京大助教授 上田弘一郎

山崎次男

坂勘

昭和九年版

樺太年鑑

四六版六百五十餘頁 定價金一圓二十錢

樺太に於ける唯一無二の社會年鑑であります、八年版は一層内容を充んでん遲を新装を施らして居ります

樺太敷香町

發行所 敷香時報社

敷香

山形屋旅館

鎌田すゞる

敷香町宮通り

秋田屋旅館

敷香町川岸通

割烹店 **新玉**

千草通南三丁目

割烹店 **會津屋**

敷香本町

土木建築請負業 **林啓次郎**

樺太敷香町

製材業 **折戸惣市**

樺太敷香町宮通り

敷香回漕店

樺太敷香町河岸通北二丁目
電話一六七番

木材部　樺太敷香町宮通北二丁目
電話一二番
木材舒部　樺太敷香町河岸通北二丁目
電話一三番

店主　糸井良七

回漕部
倉庫部
保險部
鑛油類卸部

米穀雜貨・一品一小賣

齋藤三代吉商店

樺太敷香町

造材業　事業部
支店　泊岸

米穀雜貨・十品十小賣

齋藤末吉商店

樺太元泊

造材業　事業部

取引銀行　拓銀・知取・敷香各支店

樺太東海岸泊岸港

泊岸回漕店

泊岸村會議員　大野善太郎

泊岸漁業組合長
泊岸船入澗期成同盟會長
樺太共同漁業株式會社取締役

河野銀太郎

土木築造材
流送搬出運搬　請負業

三浦勝藏

樺太東海岸
本店　新問大通北三丁目
支店　知取常盤町三丁目

所長　神澤正雄

三井鑛山株式會社

內川鑛業所
樺太內路

泊岸村役場

村長　三谷益雄
收入役　渡邊由太郎

泊岸村會議員

柳田源一郎
田口東一
上原茂樹
三浦勝藏
赤松正一

泊岸公設消防組

組頭　諸道莊次郎
第一部頭　田森利之助
第二部頭　山部永浩
第三部頭　河野一三郎

泊岸郵便局
局長　下村利則

新問郵便局長
青木金彌

新問驛長
都竹榮吉

新問尋常高等小學校
佐々木七郎

内路村役場

村長　藤田甚三
助役　木村伊喜三

内路村會議員

工藤功
武井民雄
吉田柾五郎
齋藤關松
藤川力藏
松原良吉
稻荷勝十郎
蛭田淺之助
松澤今朝藏
柿沼富藏
西山一郎
中川要

内路郵便局
局長　元山太一

内川郵便局
局長　眞鍋直市

内路村消防組
組頭　阿部金三郎
第一部頭　中野兼隆
第二部頭　松島又一
第三部頭　千葉武一郎

内路尋常高等小學校
校長　横山豐
千葉常世修次
山邊永造
中井武雄
大野善太郎
横田金之助
泉熊次郎

編纂を終りて

第六十五議會は、内地外地を通じて驚異的生産過剰を來してゐる米を、如何にして統制處理するかと云ふ所謂米穀問題、日滿經濟提携を中心とする所謂滿洲問題、この二つの問題が論議の大半を占めてゐたとも云ふべく、而もこの二大問題は何れも、拓務外地に重大なる關係を有してゐるものであるので、これが分類を如何にすべきかに付ては、相當の考慮を拂つた結果、滿洲問題は拓務本省關係議事中に又米穀問題は外地關係議事中にそれぞれ獨立的に採錄した。

大體編纂分類は、成るべく一つの問題に付ては、貴衆兩院を通じ本會議、豫算委員會、豫算分科會、特別委員會等、如何なる場合に於て論議されたものでも、その問題の始めより終局に至るまでの議事を一貫して、如何なる問題に付ては如何なる質問が行はれ、又それに對して政府の答辯は如何になされたか、一見して解るやうに力め、議事經過は、少くとも拓務外地に關係を有するものは、殆ど收錄した、然し餘りに重復せるもののあるもののみは多少の省略を行つた。

尙今會は、議會閉會直後に於て、可及的速やかに出版する豫定を以て編纂したので、萬全を期すること能はなかつたのみならず、結局に於て、出版期日の却つて遲延したることを頗る遺憾とする。

終りに臨み、本議事詳錄編纂に當り、多大の援助と便宜とを賜はりたる拓務外地關係大方の諸氏に深甚の謝意を捧ぐ。(藤川聰憲)

昭和九年春　　中央情報社に於て

昭和九年五月七日　印刷納本
昭和九年五月十五日　發行

編輯兼發行人　東京市淀野川區淀野川町五〇二　佐々木龍一
印刷人　芝區濱松町二ノ二九齋藤金次郎

定價　金參圓五拾錢

發行所　東京市麹町區內幸町一丁目六番地（商興ビル二號館）　中央情報社
振替　東京六六八〇〇
電話銀座(57)〇七六七

印刷所　東京市芝區濱松町二ノ二九　中央情報社印刷部
電話芝(43)〇八一〇番

東洋拓殖株式會社

創立　明治四十一年十二月二十八日
資本金　五千萬圓

東京市麹町區内山下町一ノ一
總裁　高山長幸

業務ノ種類　朝鮮及外國ニ於テ左ノ業務ヲ營ム

一、拓殖ノ爲メ必要ナル資金ノ供給
一、拓殖ノ爲メ必要ナル農業水利事業及土地ノ取得、經營、處分
一、拓殖ノ爲メ必要ナル移住民ノ募集及分配
一、移住民ノ爲メ必要ナル建築物ノ築造、賣買及貸借
一、移住民又ハ農業者ニ對シ拓殖ノ爲メ必要ナル物品ノ供給及其生產シタル物品ノ分配
一、委託ニ依ル土地ノ經營及管理
一、其他拓殖ノ爲メ必要ナル事業ノ經營
一、定期預リ金

支社支店及出張所

▲朝鮮支社　▲京城支店　▲奉天支店　▲新京支店　▲大連支店　▲哈爾賓支店　▲大田支店　▲裡里支店　▲木浦支店　▲大邱支店　▲釜山支店　▲沙里院支店　▲平壤支店　▲元山支店　▲間島支店　▲天津出張所　▲青島出張所

外地代表新聞

京城日報
朝鮮　京城

臺灣日日新報
台灣　台北市

滿洲日報
大連市

樺太日日新聞
樺太　豐原町

王子製紙株式會社

資本金　壹億四千九百九拾八萬八千圓
諸積立金　貳千六百參拾參萬壹千圓

社長　藤原銀次郎

本社　東京市王子區王子町
營業所　東京市麹町區有樂町三信ビルディング內

工場所在地

東京市王子工場
同　十條工場
同　千住工場
同　亀戸工場
同　江戸川工場
同　富士第一工場
同　富士第二工場
同　富士第三工場
同　芝浦工場
同　岩淵工場
愛知縣名古屋工場
同　岐阜縣
同　富山縣
同　京都市伏見工場
同　大阪市中津工場
同　兵庫縣本庫工場
同　和歌山縣
同　福岡縣
同　熊本縣
北海道苫小牧工場
同　小樽工場
同　八代工場
同　倉敷工場
同　野崎工場
同　川崎工場
同　鳥羽工場
同　都島工場
同　淀川工場
同　神戸工場
同　篠崎工場
同　小倉工場
同　八幡工場
朝鮮惠泊工場
同　須取居工場
同　釜山工場
同　太田工場
同　大邱工場
同　鳳凰工場
同　知多工場
同　眞野工場
同　泊原工場
同　取合工場
同　岡田工場
同　居取工場
同　樺太工場
同　大泊工場
同　豆滿江工場
同　鋼路工場

14:3
107